

### 自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	・地域密着型サービスの意義を職員全員で確認し、地域生活の継続支援と事業所と地域の関係強化を謳った独自の理念をつくりあげている。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	・朝の申し送り時に、出勤者全員で唱和し、確認している。 ・ミーティングでは、理念を掘り下げて職員全体で話し合い、具体的なケアについて意見の統一を図っている	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にされた理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	・ご家族には訪問時や家族の集まり時等、折に触れて伝えている。又ホームの見学の場面でホーム内に貼り出しているので説明したり、ホーム便りも活用している。 ・町内会や地域の集まり、イベントの参加の他、折に触れて事業所の実践を伝えるようにしている。	
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	・日常的に散歩や買物などに出かけ、近隣の人たちと挨拶を交わしたり、話をしたりしている。事業所の様子を見に来てくださるなど、近隣に住む人達と触れ合う機会が多い。 ・隣にいこいの森のデイサービスセンターがあり、地域の利用者の方々がGHを訪問してくれたり、又こちらからDSへ利用者が訪問して利用者の方々とお話をしたり、カラオケをしたりしている。 ・管理者は事業所での実践内容を踏まえて、地域の様々な研修、会合に関わりながら認知症ケアの啓発に努めている。又、人材育成の貢献として実習生の受け入れも積極的に行なっている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>			
5	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自己評価を全職員で行い、サービスの質の向上に努めている。外部評価の結果は、ミーティングで報告し、改善に向けて具体案の検討や実践につなげるための努力をしている。</li> <li>サービス評価の意義や目的を全職員に伝え、全員で自己評価の取り組みを行なっている。</li> </ul>	
6	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>運営推進会議で検討事項や懸案事項について話し合いを行い、その経過を報告し合い、一つひとつ積み上げていくようにしている。また、これまでの評価結果を踏まえて、現在取り組んでいる内容についても報告し、意見をもらうようにしている。</li> </ul>	
7	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市町村担当者への事業所からの情報提供、また市町村担当者から事業所への情報の提供と共有を積極的に行なっている。また課題解決に向けて市町村担当者と協議しながら一緒に解決を図っていく取り組みを行っている。</li> </ul>	
8	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>機会ある事に職員への説明を行なっている。また対応が必要と思われる利用者がいた場合は、随時、職員に説明とアドバイスをしながら利用者の支援に結びつけている。</li> <li>管理者は成年後見制度や地域権利擁護事業の研修に参加している。</li> </ul>	
9	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>勉強会やミーティング等を実施し、高齢者虐待防止法に関する理解浸透や遵守に向けた取り組みを行い努力している。</li> <li>高齢者虐待防止関連法の研修に参加している。</li> </ul>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
10	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている		
11	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている		
12	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている		
13	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている		
14	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている		
15	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
16	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的には、各ユニットの職員を固定化し、顔馴染みの職員によるケアを心がけている。新しい職員が入る場合も、利用者にきちんと紹介をしている。</li> <li>・移動や離職がやむを得ない場合も、その時期や引継ぎの面で最善の努力をしている。</li> </ul>
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
17	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業所外で開催される研修には、多くの職員が受講できるようにしている。それらの研修報告は、全職員にコピーして配布している。又、研修内容は全職員が閲覧できるようにしている。</li> </ul>
18	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・八戸地区認知症高齢者GH協議会の会員であり、その中で学習会や交流をもつ事により、サービスの質の向上を目指している。</li> <li>・他グループホームとの交流会を年1回実施している。この交流会を通して事業所外の人材の意見や経験をケアに活かしている。</li> </ul>
19	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員の疲労やストレスの要因について気を配り、管理者は職員の話をよく聞き、各自のストレスや背景の把握につとめている。また職員同士の間人間関係を把握する事も行なっている。毎月職員から希望をとり、ストレスの軽減につながるよう有休を与えている。</li> </ul>
20	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員の資格取得に向けた支援を行い、取得後は職場内で活かせる労働環境作りに努めている。</li> </ul>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
21	○初期に築く本人、家族との信頼関係  相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	・サービスの利用について相談があった場合は、必ずご本人に面談して心身の状態やご本人の思いに向き合い、職員が本人に受け入れられるような関係作りに努めている。	
22	○初期対応の見極めと支援  相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・これまでのご家族の苦労や今までのサービスの利用状況など、これまでの経緯について、ゆっくりお話を聞くようにしている。又、十分お話を聞く事で信頼関係をつくることにつなげ、次の段階の相談につなげている。	
23	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	・相談時、本人や家族に事業所を見学してもらう事から始め、ご本人が来れない場合はこちらから出向いていき、ご本人に安心感をもってもらうように努めている。	
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
24	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	・支援する側、支援される側という意識を持たず、お互いが協働しながら和やかな生活ができるように場面づくりや声がけに配慮している。又一人ひとりの言動から喜怒哀楽に関心を寄せ、本人の思いを共感し、理解する事に留意して暮らしの中で、共に支えあえる関係づくりをしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25	○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	・ご家族との情報交換を密に行い、家族の思いに寄り添いながら、本人と一緒に支えるために家族と同じような思いで協力関係を築いている。また入居時ご家族から中央センター方式を利用して自宅での生活を記述して頂いて、自宅での生活に近づけるように支援している。		
26	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	・ご家族、本人の思いや状況を見極めながら、外出や外泊で家族と一緒に過ごす事を勧めている。また行事に家族を誘ってより良い関係の継続に努めている。(花見・夏祭り等)		
27	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・地域に暮らす馴染みの知人・友人等がよく訪問してくれている。また会いに連れていったり、昔から利用している美容院等にも引き続き利用を支援している。一人ひとりの生活習慣を尊重しながら継続的な交流が出来るよう働きかけを行なっている。		
28	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	・利用者同士の関係性について情報を連携して、全ての職員が共有出来るようにしている。又、日々の心身の状態や気分、感情で変化するので注意深く見守るようにしている。又、毎日利用者同士の関係がうまくいくよう、職員が調整役となりみんなで楽しく過ごす時間等をつくり支援している。		
29	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	・サービスの利用が終了されたご家族からの、相談等についている。又、遊びに来たいという方にもいつでもどうぞと申しあげています。利用中に培った関係性を基盤にしながら、継続的なフォローをしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>1. 一人ひとりの把握</b>			
30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居の際に、本人にとってどの様に暮らす事が最良なのかを家族を交えて検討している。又、日々のかかわりの中で声をかけ、把握に努めている。言葉や表情からその真意を推し測ったり、それとなく確認している意思疎通が困難な方には、ご家族が面会にいらした時に情報を得るようにしている。	
31	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族、関係者などから聞き取りを行っている。又、入居時にご家族に中央センター方式を利用して生活歴、馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等記入していただいています。	
32	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者一人ひとりの心理面や生活リズムを理解すると共に、出来る事に注目して本人の全体像を把握している。	
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者が自分らしく暮らせるよう本人や家族の要望を聴き、課題となる事を職員全員で話し合いながら介護計画の作成に活かしている。	
34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者一人ひとりの担当者を決めて、介護計画の遂行状況、効果などを評価するとともに、常態が変化した際には、終了する前であっても家族、本人の要望に応じて職員全員で検討見直しを行なっている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
35	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・個別にファイルを用意して、バイタル、食事、排泄等身体的状況及び日々の暮らしの様子や本人の言葉、エピソード等を記録していて、いつでも全ての職員が確認出来る様にしている。個別記録を基に介護計画の見直しや評価を実施している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
36	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	・本人、家族の状況に応じて、受診や入院の回避、早期退院の支援、医療処置を受けながらの生活の継続、通院や送迎等必要な支援は柔軟に対応し、個々の満足度を高めるよう努力している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
37	○地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	・利用者が安心して地域での暮らしを続けられるよう消防、保育園、周辺施設や病院等への働きかけや民生委員との意見交換する機会を設けている。		
38	○他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	・町内会の行事に参加したり、本人の希望や体調に応じて、訪問理美容サービスを利用してもらっている。		
39	○地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	・運営推進会議に地域包括支援センターの職員、役場職員、民生委員等が参加しており、周辺情報や支援に関する情報交換、協力関係を築いている。		



項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
40	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>		
41	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
42	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
43	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
44	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
45	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
46 ○住み替え時の協働によるダメージの防止  本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	・新しい住まいでも、これまでの暮らしの継続性が損なわれないように、これまでの生活環境、支援の内容注意が必要な点について情報提供し、きみ細かい連携を心がけている。また馴染みの職員が機会を作って訪問したりして、リロケーションダメージを最小限に食い止めるよう努めている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>			
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>			
47 ○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	・勉強会やミーティングの折に、職員の資質向上を図ると共に、日々の関わり方を管理者が点検して、利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応の徹底を図っている。		
48 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援  本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	・利用者に合わせて声をかけ、意志表示が困難な方には、表情を読みとったり、複数の選択肢を提案して一人ひとりの利用者が自分で決める場面を作っている。		
49 ○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・基本的な1日の流れは持っているが、時間を区切った過ごし方はしていない。一人ひとりの体調に配慮しながら、その時の本人の気持ちを尊重しながら、柔軟に対応している。		
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>			
50 ○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	・個々の生活習慣に合わせた支援をし、日頃から化粧やおしゃれを楽しんでもらえるよう取り組んでいる。本人の馴染みの理美容院で、希望にあわせたカットや毛染めをしてもらえるよう、連携を図っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51 ○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・献立作りは利用者の希望などを取り入れて、栄養士に作って頂いている。なるべく旬の食材や新鮮なものをとり入れ、利用者の好みや苦手なものを踏まえたメニューを工夫している。下ごしらえ、盛り付け、片付け等利用者と共に行い、職員と利用者が同じテーブルを囲んで楽しく食事出来るよう雰囲気作りも大切にしている。		
52 ○本人の嗜好の支援  本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	・職員は、一人ひとりの嗜好物を理解しており、本人の様子や時間をみながら、それらを楽しめるように支援している。タバコについては、職員が預かり本人の希望にそって他の利用者の迷惑にならないよう、指定の場所で吸えるよう配慮している。		
53 ○気持ちよい排泄の支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	・自宅でオムツを使用していた利用者にも、排泄のパターンを把握し、時間を見計らってさりげない声かけや誘導を行い、オムツの使用を減らし、可能な限りトイレで用を足す支援を行っている。多くの利用者は、下着または尿とりパッド、リハビリパンツ等に変わっている。		
54 ○入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	・毎日、午前・午後共入浴できる体制を整えている。利用者の希望を必ず確認してから入って頂いている。入浴を嫌がる利用者には、その日が駄目なら翌日とか柔軟に対応している。言葉かけや対応の工夫、チームプレイ等を活用しながら入浴支援を行っている。又、毎日夕方には入浴しない方には、足浴を実施。		
55 ○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	・なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えるよう努めている。夕方から穏やかで安心した時間が過ごせるような支援を行い、就寝に向けてリズムが安定するよう支援している。寝つけない時には、温かい飲み物を飲みながらおしゃべりをする等配慮している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>			
56 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	・得意分野で一人ひとりの力を発揮してもらえるようお願いできそうな仕事を頼み、必ず感謝の言葉を伝えるようにしている。食事作り、庭木の剪定、野菜作りや草取り等をして頂いている。又、遠出の外出や地域の行事参加等の楽しみごとを利用者と相談しながら行なっている。		


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・家族の協力を得て少額のお金を持っている人もいる家族よりお金を預かり、事業所が管理している人でも外出時や買物等のお金は自分で払っていただけるようにお金を手渡し、ご本人が支払いを行うような工夫をしている。		
58	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	・天気や本人の気分や希望に応じて、季節を肌で感じてもらい、心身の活性につながるよう日常的に散歩、買物あるいはドライブ等に出かけている。		
59	○普段行けない場所への外出支援  一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	・本人がいききたいと思う遠くの場所への外出については、予め計画を立て、職員の勤務を調整する等しながら行なっている。山菜取りに行きたいと言うので近場に山菜取りにいたり支援を行っている。		
60	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・家族や友人等に電話しやすい雰囲気作りや、職員からの声かけを行うとともに、本人からの希望があれば会話が他の利用者に聞こえないように玄関に公衆電話を設置しており、いつでも電話がかけられるようにしてある。日常的に手紙は出せるように支援を行っている。		
61	○家族や馴染みの人の訪問支援  家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	・ご家族や、知人、友人、地域の方々がよく訪れている。気軽に来やすい雰囲気作りを心がけ、訪問時間等は定めておらず、仕事帰りやご家族の都合のいい時間帯に、いつでも訪ねてきていただけるような配慮を行なっている。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
62	○身体拘束をしないケアの実践  運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・ミーティングや日々の申し送り等で、その日のケアの振り返りや、高齢者の権利擁護や身体拘束に関する話合い等を実施し、職員の共有意識を図りながら、[どんな事があっても拘束は行なわない]という姿勢で取り組みを行なっている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
63 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	・職員の見守りの方法を徹底し、入居者一人ひとりのその日の気分や状態をきめ細かくキャッチし、利用者が外出しそうな様子を察知したら、止めないでさりげなく声をかけたり、一緒についていく等して日中は玄関の鍵をかけずに自由な暮らしを支援している。又、職員が一緒についていった時は、安全を確保する事に配慮している。		
64 ○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	・職員は利用者と同じ空間で記録等の事務作業を行いながら、さりげなく全員の状況を把握するよう努めている。夜間は、1時間ごとに利用者の様子を確認すると共に、居室が見通せる場所で仕事をし、休憩も起きられた時にすぐに対応できるようソファで休む等、24時間利用者の安全に配慮している。		
65 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	・利用者の状況に照らしながら、嚴重に保管すべきものには鍵を使用し、保管管理が必要なもの、利用者が使う時に注意が必要な者等に分けて管理している。		
66 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	・日々のヒヤリハットを記録し、職員の共有認識を図っている。万が一の事故が発生した場合には、状況を正確に伝える事を職員が徹底して行い、事故原因の今後の予防対策について検討し、家族への説明と報告を行なっている。		
67 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	・消防署の協力を得て、応急手当や蘇生術の研修を実施し、全ての職員が対応出来るようにしている。又、緊急時対応について、マニュアルを整備し周知徹底を図っている（AED、吸引器を設置している）		
68 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	・マニュアルを作成して、年1回利用者と共に避難訓練を行っている。又年1回は、消防署の協力を得て避難訓練、避難経路の確認、消火器・火災通報装置の使い方などの訓練を行なっている。地域の協力体制については、運営推進会議で協力を呼びかけている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
69 ○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	・様々な役割活動や自由な外出により、リスクが高くなるものの、力の発揮や抑圧感のない暮らしが利用者の表情を明るくし、むしろ行動の障害を少なくしていることをご家族に見てもらって、具体的に説明等を面会時にして、理解を得られるように努めている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
70 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	・日々の体調や些細な表情の変化も見逃さないよう早期発見に取り組んでいる。朝・夕のバイタチェックを行い変化等気付いたことがあれば、すぐに管理者に報告すると共に職員間で共有し、状況により医療受診につなげて、記録をとっている。		
71 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・薬の処方箋を各個人ごとに整理して、職員が内容を把握出来る様になっている。服薬時は本人に手渡しきちんと服用できているかの確認をしている。又、薬の処方や要領が変更されたり、本人の状態変化がみられるときは、指定の薬剤師・看護職員・協力医療機関との連携を図れるようにしている。		
72 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	・一人ひとりの1日の暮らし全体の中で、食材の工夫や運動を働きかけることで自然な排便が出来るよう取り組んでいる。それでも自然排便のない人には、個々の常態に合わせた使用量、頻度となっており、薬にむやみに頼らない工夫をしている。		
73 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	・毎食後の歯磨きの声かけを行い、力に応じて職員が見守ったり、介助を行っている。就寝前は義歯を洗浄液につけている。		
74 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・普段から利用者の食べ物、飲み物の好みや苦手なものをとらえる等、日頃の様子を観察しながら柔軟な支援を行っている。食事内容や摂取状況を記録し職員が情報を共有している。献立は栄養士が栄養のバランスを配慮して作成している。水分補給は一人ひとりにあった支援を行い、飲水量は職員全員が常に意識しながら関わっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75	○感染症予防  感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	・事業所内で起こり得る感染症について、細かくマニュアルを作成し、全職員で早期発見、早期対応に努めている。又、利用者及び家族に同意いただき、職員ともにインフルエンザ予防接種を受けている。ノロウイルス対策として、ジェットタオルを使用し、消毒液として、消臭除菌水ジェイ・エス・ジェイを使用している		
76	○食材の管理  食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	・調理器具、台所水回りの清潔・衛生を保つよう、職員で取り決めて、実行している。冷蔵庫も点検・掃除し、まな板や布巾等は漂白して清潔を心がけている。又、食材の在庫表を作成したりして食材の残りの点検を頻繁に行い、残ってしまった食材が古くならず、無駄なく使用出来る工夫を行なっている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
77	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫  利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	・明るい雰囲気玄関になるように、花を生けたり、プランターをおいて季節感を演出している。さらに近所の人が立ち寄った時に、荷物を置いてひと息つけたり、庭先でお茶を飲めたりするスペースを造っている。		
78	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・茶碗を洗う音、ご飯の炊ける匂い、心地良い音楽、鍋料理、山菜料理、団子やお餅など五感や季節感を意識的に取り入れて、うまく活用しながら暮らしの場を整える工夫をしている。		
79	○共用空間における居場所づくり  共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・玄関ホールや階段の踊り場に、椅子やソファ等を置き、絵画や花等で装飾した居心地の良い空間を作っている。また廊下に椅子と小さなテーブルを置き、一人で過ごしたり、仲の良い利用者同士でくつろげるスペースを作っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
80 ○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	・写真や仏壇、ソファ等使い慣れた日用品が泊ま りの部屋に持ち込まれ、利用者の居心地のよさに配 慮している		
81 ○換気・空調の配慮  気になるにおいや空気の上よみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	・換気は全室24時間自動的に行なわれている。ま た、冷暖房は常温の±5℃を基本に、利用者の発汗の 様子や冷え等に注意して調節するようにしている。 各居室やホールに温度計や湿度計を設置してあり、 トイレは換気扇と消臭剤で悪臭が出ない工夫をして いる。		
<b>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>			
82 ○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	・利用者の状態にあわせて、手すりや浴室、トイレ 廊下などの居住環境が適しているかを見直し、安全 確保と自立を意識した工夫をしている。		
83 ○わかる力を活かした環境づくり  一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	・本人にとって「何がわかりにくいのか」「どうし たら本人の力でやっていただけるのか」を追求して 状況に合わせて環境整備を行なっている。状態が変 わり、新たに混乱や失敗が生じた場合は、その都度 職員一同で話し合い、本人の不安材料をとり除き、力 をとりもどせるよう試みている。		
84 ○建物の活用  建物を利用者が楽しんだり、活動でき るように活かしている	・玄関先にベンチを置き、利用者が涼んだり日向 ぼっこができるようにしており、車イスの方も中庭 にベンチを用意してあり、外の空気や花を楽しめる ようにしている。又、回りに畑のスペースを確保 し、利用者が日常的に花や野菜作りを楽しみながら 活動できるような環境を作っている。		

(  部分は外部評価との共通評価項目です )



V. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
95	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

利用者の個々の家族等とのきめ細かいやり取りのため、定期的な報告の他にも事業所から家族等に対し、あらゆる接点で情報提供を行なっている。又、家族から要望や本音を伝えてもらうことに努めている。